

## 第 1 部 平成 26 年度活動実績



# 第1章 活動実績

中山間地域・島しょ部対策領域 准教授 細野賢治

## 1. COC 中山間地域・島しょ部対策領域の概要

広島大学のCOC「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」事業は、①ひろしま平和発信、②中山間地域・島しょ部対策（条件不利地域対策）、③障がい者支援、の3つの柱を設定し、これらを大学と地域が協働しながら進めていくことで、「地域や国、年齢、性、人種等の違いや障がいの有無を超えて、いつでも、どこでも個々人が幸福な人生を享受できる社会の実現」をめざすという取組である。

広島県は、条件不利とされる中山間地域・島しょ部の合計面積の県土に占める比率（中山間・島しょ率）が86.0%である。図1は、広島県内各市町の中山間・島しょ率と当該領域において連携している市町を示している。生物生産学部が取り組むCOC 中山間地域・島しょ部対策領域は、①体験学習、②フィールド研究、③地域貢献、の3つの柱から構成されている。これらは、実学をベースにしつつ、第1段階として「地域を知る」、第2段階として「地域と関わる」、第3段階として「地域と協働する」といったように、地域と大学との関係性の発展段階を想定したものである。そして、その成果として、地域にとっては課題の解決、学部にとっては即戦力となる人材育成の実現をめざしている。

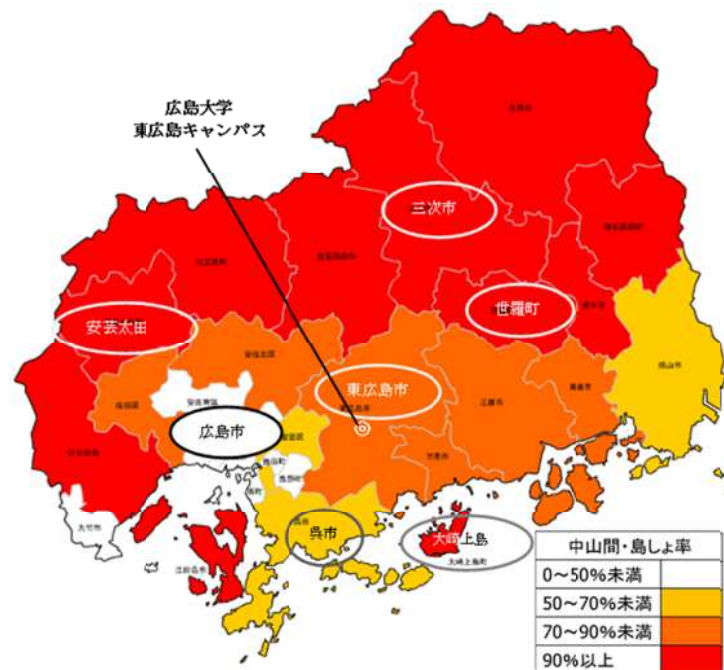


図1-1 広島県における各市町の中山間・島しょ率と広島大学との連携関係  
注1) 各市町面積に占める中山間地域および島しょ部（合計）の構成比。  
注2) 名称が○印で囲まれている市町は、広島大学生物生産学部の体験学習において連携関

係を構築している。

また、それぞれの取組がカリキュラムや学部行事と連動しており、大学が社会において担うべき高等教育、研究、社会貢献の3つの要素を効果的に組み込もうと試みた。

これらの実施体制としては、教育研究面では食料生産管理学研究室（教授1、准教授1、COC担当特任助教1）が担当し、地域との連絡調整や事務処理等については、生物圏科学研究科地域連携室（コーディネータ1、事務員1）が担当した。

## 2. 学部教育と関連したCOC活動

### (1) 生物生産学部におけるCOC関連科目の位置づけ

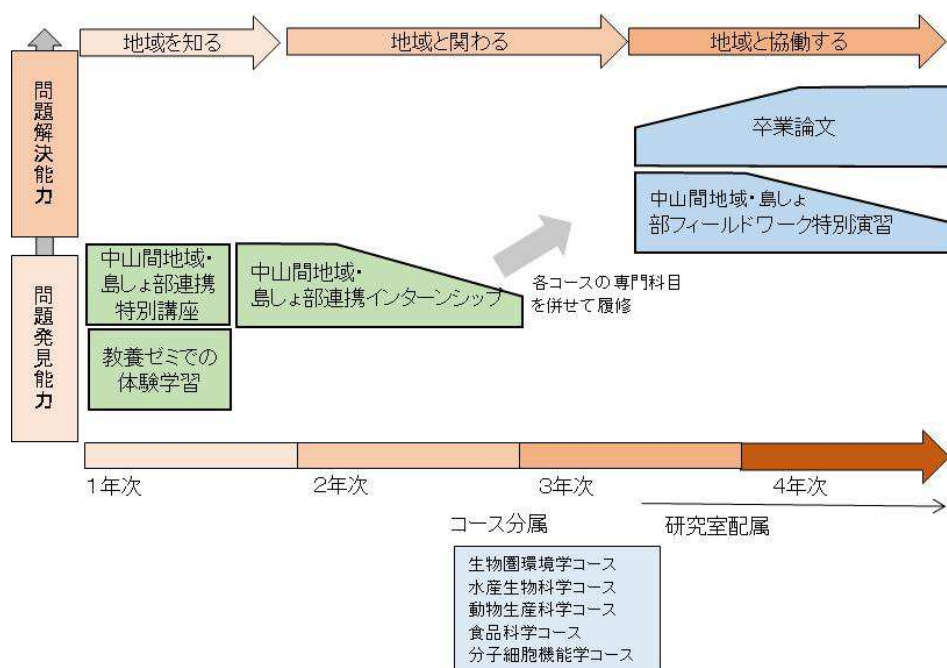


図1-2 生物生産学部におけるCOC関連科目の位置づけ

生物生産学部におけるCOC関連科目は図2に示した通り、学生が地域課題のみならず社会において即戦力となるために必要な「問題発見能力」と「問題解決能力」を獲得するために、カリキュラムの年次進行に従って段階を踏むという形を採っている。まず「地域を知る」段階として、1年次前期の「教養ゼミ」（教養教育科目）における広島県内の農漁村での体験学習により、地域の実情を目で見ることから始める。そして、「中山間地域・島しょ部連携特別講座」（専門科目）において、地域で活躍する人物の生の声を聴く。これらの予備知識を携えた状態で、1年次後期から2年次にかけての「中山間地域・島しょ部連携インターンシップ」（専門科目）において、地域での就業体験により「地域と関わる」という次の段階に移行する。これら3科目は「問題発見能力」を獲得するためのものである。

また、3年後期からの「中山間地域・島しょ部フィールドワーク特別演習」および「卒業論文」での地域研究では、地域と関わりながら自身の問題意識の下での課題解決を試みることで、「問題解決能力」を獲得することを目的としている。また、これらの科目を履修・

修得する中で学生の地域との関わりが深まり、「地域と協働する」ためのきっかけとなることを期待している。

## (2) COC 関連科目における教育活動

### ①「教養ゼミ」での体験学習

「教養ゼミ」は 1 年次前期に配置された、広島大学における全学共通の学部導入科目である。全学部 1 年次生を 10 人ほどのグループに分け、それぞれ本学教員が担任となり、大学教育における修学意欲の向上や専門分野への動機づけを行うという科目である。COC 本格導入初年度である 2014 年度は、広島県中山間地域振興課による支援のもと、前掲図 1 に示した本学部の COC 事業に協力的な県内 7 市町 9 地域の農漁村に学生が訪問し、それぞれの地域住民および行政機関の協力のもとで半日ないし 1 日の体験学習を行った。これに際して、全体説明が 1 回、各グループでの事前学習 1 回、事後学習 1 回が行われた。そして、期末の体験学習報告会で各グループが体験学習を踏まえた研究発表を行ったが、この準備は学生が自主的に行っている。なお、体験学習報告会における研究発表に対する評価は、学生による相互評価で行っており、その評価項目は、①発表内容、②プレゼンテーションの方法、③チームワークである。学生の相互評価方式を採用したことで、研究報告準備において学生の取組意欲が向上した。詳しくは後述する。

### ②「中山間地域・島しょ部連携特別講座」

この科目は、1 年次前期に配置されており、広島県内の農山漁村地域で実際に地域おこしや農業振興に携わっている人物からその取組実態を学ぶことによって、即戦力となる人材の育成に寄与することをねらっている。また、広島大学と地域との交流・連携強化の一助になることを期待した取組でもあった。具体的には、2014 年度は①地域づくり、②6 次産業化、③農商工連携、の 3 つの分野を設定し、地域で活躍する人物をそれぞれの分野から合計 7 人招聘し、各 1 回ずつ講義を行ってもらった。そして必ず COC 担当教員がその講義をフォローすることで、各講義に関連性を持たせたり、一定の視点を提示したりといったように、学生がこれらの講義を体系的に理解できるよう工夫した。詳しくは後述する。

### ③その他の科目

「中山間地域・島しょ部連携インターンシップ」は 1 年次後期に配置され、広島県や先に挙げた 7 市町などの協力により、学生が農山漁村で先進的な取組を行っている農家や農業法人等でインターンシップを経験するというものである。また、「中山間地域・島しょ部フィールドワーク特別演習」は 3 年次後期に配置され、前述の 7 市町内にある農林水産業および関連産業、行政機関等に学生自らが自身の問題意識の下で複数個所訪問し、インタビューを行ってそれらをレポートにして報告するというものであった。そして、卒業論文では各自の専門分野に基づいて地域をフィールドとして研究を行った。

### 3. 地方創生と関連した COC 活動

#### (1) 学生による地域研究と地域貢献

2014 年度における学生による地域研究と地域貢献活動は以下の通りである。まず、地域研究であるが、2014 年 3 月卒業生 116 人中 22 人が地域研究をその課題として卒業論文を執筆した。

また主な地域貢献活動は、①せらマルシェ・広島大学 COC コラボ企画「世羅の日本一を探そう―世羅高校×広島大学コラボワークショップ」(世羅町)の実施、②広島県島しょ部カンキツ地帯におけるツーリズム導入による地域再生の可能性を検討(大崎上島町、呉市豊町)、③大長櫓祭りの広島大学生参加と地域住民との交流(呉市豊町)などである。

詳しくを後述するが、これらの活動の成果は、大学にとっては、①学生の自主的な研究活動の実践的な場を提供してもらえたこと、②研究成果を地域に還元できる機会を与えてもらえたことで、学生の満足度が向上したこと、③地域において学生自らの活動が評価を受けたことで、彼らの自信につながったこと、などが挙げられる。また、地域にとっては日常当たり前のことに価値があるという気づきにつながることで、これによって地域において誇りの再生につながることで期待できること、などが挙げられる。

#### (2) COC 円卓フォーラム

2014 年 12 月 10 日に「広島大学・地(知)の拠点整備事業中山間地域・島しょ部領域 円卓フォーラム」を開催した。第 1 部では、教養ゼミ体験学習報告会における学生相互評価で上位の成績を取めた 3 つのグループによる活動報告と地域受入組織・団体と学生とのエール交換が行われた。そして第 2 部では、「円卓フォーラム」として体験学習を受け入れた地域組織・団体、行政と大学が 2014 年度に行われた交流・連携の成果と問題点を確認し、参加者相互の同意を経て共同宣言を採択した。詳しくは後述する。